

4年ぶりに出現した珍しい 変化朝顔、宝蓑葉

井上尚子・高山信明

広島市植物公園で2015年に出現した珍しい変化朝顔、^{たからみの}宝蓑葉が再び出現したので記録する。

2015年に宝蓑葉が出現した記録がある系統のうち2017年に採集した種子（整理記号「林風②E」）を2019年夏に12粒まいた。その結果、宝蓑葉の株が1株出現した（図1、2）。

若名英治著1905発行の「牽牛子葉図譜」では宝蓑葉を何種類かに分類しているが、^{やつふさたからみの}絵合わせをした結果、今回出現したのは八房宝蓑葉と思われた。



図1 宝蓑葉の双葉 図2 宝蓑葉の本葉

宝蓑葉の株を8月24日に掘り上げて撮影した（図3）。前回同様、宝蓑葉の特徴がよく現れた葉は下部に認められ、栄養成長から生殖成長に切り変わる上部で、^{かかみの}抱蓑葉と呼ぶべき形に変化していた。

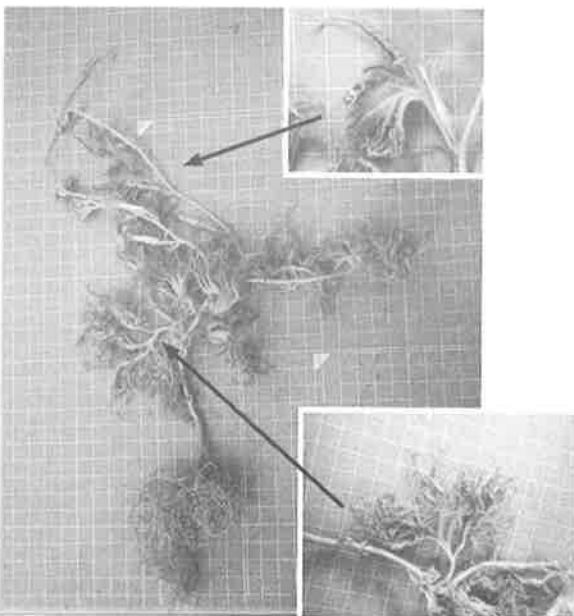


図3 宝蓑葉の株を掘り上げたもの。枠内は上方の葉と下方の葉のアップ。背景の目盛りは幅1cm。

宝蓑葉の出現に必要な変異（遺伝子）の組み合わせの参考資料として、図4に兄妹株を掲載した。

確認できた変異は「^{きぼ}黄葉」、「^{りんふう}林風」、「^{ささ}笹」、「^{かかえ}抱」、「^{たつた}立田」、「^{とんぼ}蜻蛉」であった。

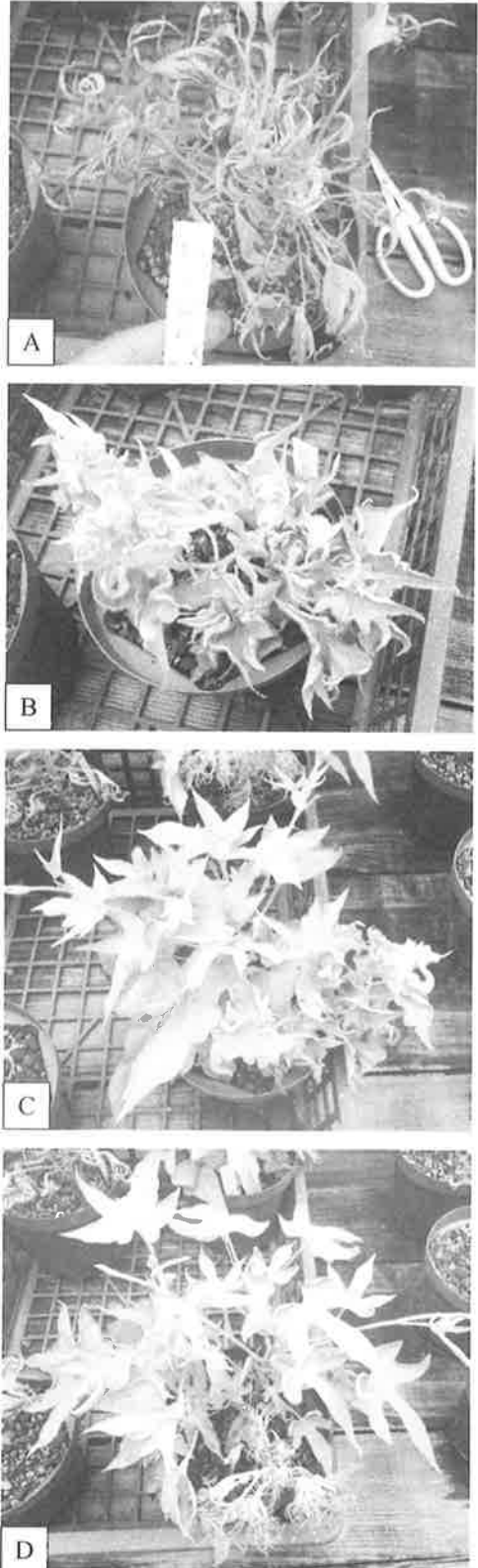


図4 宝蓑葉の兄妹株。A：^{きくすいたつたきほ}掬水立田笹葉、^{かかえりんふうたつたえだしつば}B：抱林風立田枝出葉、
C：抱林風立田葉+林風蜻蛉葉+立田葉、D：蜻蛉立田葉+立田葉+宝蓑葉